

## 令和6年度 第1回鹿島市水道事業審議会 議事録【概要版】

1. 日時：令和6年10月23日（水）10時～11時40分
2. 開催場所：新世紀センター 2階 会議室
3. 出席者
  - (1) 委員：池田委員、片淵委員、亀井委員、喜多委員、合六委員、小柳委員、田口委員、武富委員、洲上委員、迎委員、森委員
  - (2) 事務局：中村水道課長、田口課長補佐、椛島課長補佐、松尾管理係長、富岡工務係長

### 4. 内容

#### (1) 開会 事務局

・職員紹介

・審議会委員の交代

(旧) 佐賀県有明海漁業協同組合の鹿島支所 中島美代子 様

(新) 佐賀県有明海漁業協同組合の鹿島支所 峰松弘子 様

#### (2) 会長あいさつ 会長

#### (3) 議事

**事務局**：議題（1）の「令和5年度鹿島市水道事業決算の概要について」説明

#### (4) 質疑応答

**A 委員**：鹿島市水道の数字を過去の分も見させていただいてます。状況としては、基本的に毎年このような状況でされています。この資料の2の最初の方にありましたように、給水人口が徐々に減ってきています。給水人口が減ると、水道料金の収入に直結する有収水量が年々減っていくという形になります。先ほど最後のページに老朽化の数値がありました。8ページ目のところに、有形固定資産減価償却率が61.34パーセントですけど、これはすでに61.34パーセントも老朽化している。ということは、残りもう40パーセントを切っていて、年数が経っていくとその施設も使えなくなるので、施設の更新をずっとやっていかないといけないということになります。表の下に管路更新率が出ていますが、この61.34パーセントに対して0.55パーセントで、年に1パーセントも更新ができないということです。すぐに更新率を上げようと思っても、実際は、1年に1パーセント上げるのも難しいというのが、この更新率になります。今回料金改定をされた1つの要因というのは、今後の更新にお金を確保していくということで、これは全国的な1番の課題です。鹿島市水道の老朽化というのはどういったところに、影響が出るかというと、漏水に繋がります。漏水が増えると、修繕のコストも増えていきます。更新は時間をかけないとできませんが、それ以外に漏水にも費用を回されています。更新と今の施設を修繕で維持しながら、バランスよく事業を展開されているのが今の鹿島市水道の状況だと思います。

**B 委員：**6年度から水道料金が値上げになっています。このままの状態で行くと減っていくということですが、6年度からの値上げについて、どのくらい今の状況は改善できるのかお伺いしたいと思います。

**事務局：**今年度途中からになります、15パーセント値上げをさせていただきましたので、年間の利益として7000万程度の上乗せになります。その分を最終的に留保資金に積み立てて、工事をして不足した分に補填します。ただし、補助金で抑えられていた電気料金の部分とかが上がってきていますので、最初想定していたような利益を出せるかどうかで今後の見通しが変わってくると思います。

**C 委員：**決算の内容は初めて聞くような文言もあって、理解しにくいところもあります。資料の6ページの収支不足額は、今回、6年度から水道料金が上がって、この不足額が減っていくという考え方でいいのでしょうか。

**事務局：**この不足額に関しては、今後増えます。資本的収支というのは工事に関する部分で、今まで5000万から1億かけて工事をしていましたが、今年度は更新スピードを上げるために3億から4億近く工事をします。その工事費をどうやって補填するかというと、借金をしますが、借金も全額ではありません。そういったところの差額が不足してきますので、基本的に不足額は増えていきます。水道料金で利益を上げると、積立金が増えて、その不足額を補填していくような形になります。その積立金が減ってくると不足額の補填ができなくなりますので、今回、料金の見直しをさせていただいたという経緯になります。

**A 委員：**補足をいたします。ここで出ている収支不足額の考え方ですが、公営企業は予算が2種類に分かれております。収益的収支というものと資本的収支という予算の2本立てです。公営企業で出している利益は収益的収支の方の予算で、こちらは維持管理に伴う収入と費用で利益を算出します。資本的収支は、いわゆる新たな施設や固定資産を作るためのお金の収支の不足を言います。今回料金を改定したことによって当然収益的収支の方の利益が増えますので、そこで出た利益をこちらの不足に回していくという形でどんどん更新がしやすくなります。この建設改良費を今まで1億だったものを2億、3億にすると当然不足額大きくなりますが、収益的の方で増えた利益が使えるようになります。

**D 委員：**先ほど水道料金の値上げで7000万円ぐらい増収が見込めるということでしたが、今後、人件費の高騰とか原材料価格の高騰とか続いていくと思います。そうなった時に、今回15パーセントの値上げを実施されましたが、それで本当に追いつくのかなと思いました。そういったところの見通しで、今後どのように工事計画を立てられているのか、スピー

的に間に合うのか気になりましたので教えていただいていた方がいいですか。

**事務局：**去年の審議会の資料の中で、料金値上げの見通しとして最低5年は持つ予定です。ただ、色々値上げ等も影響してきますので、その辺りは5年をめどに見直しながら進めていきたいと思っています。この後、整備計画をご説明いたしますが、その中でシミュレーションをしておりますので、それも合わせてご説明させていただきたいと思います。

**事務局：**議題（2）「鹿島市水道施設整備基本計画について」説明

**会長：**管路だけの不足分のシミュレーション、さらには大木庭浄水場を入れたシミュレーションを見ますと、令和6年度に改定されて、あと5年おきに11年、16年の料金改定ということですが、浄水場の整備を入れても同じ5年ごとの改定という考え方でよろしいですか。

**事務局：**はい。管路だけのシミュレーションと、大木庭浄水場の整備を加えたシミュレーションの2種類を資料につけています。シミュレーションでは、今年15パーセント改定しまして、管路だけの場合は11年度、16年度に見直しを行っています。大木庭浄水場については、11年度、16年度に同じく料金見直しをしたシミュレーションをつけています。

**E委員：**今水量が減っているのは、ポンプの老朽化による故障なのか、それとも地下水の水量が減っているのかということをお尋ねします。大木庭浄水場はダム水系からの水量を引き込むということで計画を立てたはずですが、それは変わらずに、地下水で運営をしていくということですか。

**事務局：**5ページのグラフは井戸の状態を表しています。この井戸の取水量が、令和元年頃から急激に減っています。井戸の構造上、縦穴を掘って縦穴が崩れてこないようにケーシングという土砂を塞いでいる鉄管に穴を開けて地下水が入ってきます。原因を調査したところ、その穴がサビによってだんだん詰まってしまう、水が入ってこない状態になっていました。原因がわかりましたので、ブラシのようなもので洗浄して対応しましたが、元々の取れる量から3割ぐらいしか戻らず、完全には回復できませんでした。そのまま使い続けるとまた減っていくだろうという推計がグラフになっています。水道事業は第6次拡張事業という国から認可をいただいて経営しています。昭和63年に、人口が増えて下水もくるから水が足りなくなるだろう、七浦、古枝、能古見のまだ上水を供給できていないエリアも拡張して水道に取り込もうという形で、ダムを作って、ダムから流した水を取水することで水源とするという認可をいただいています。大木庭浄水場を作るにあたっては、井戸を使いながら、最低限の整備をして、井戸の統廃合をどうするか、浅浦や浜水系を取りこむような形も視野

に入れて、事業費など策定しているところです。

**E 委員：**必ず作るということではなくて、あくまでも水量が減って維持管理が不可能になると、建設の予定を立てなくてはいけないということですね。ポンプの汲み上げの修理をすることによって、大木庭浄水場建設のコストを引き延ばしていけるような対策を取っていただければいいと思います。

**事務局：**補足ですが、地下水が入ってくるところが塞がってしまい、水が入ってこないという状況が発生したので、内側から洗浄して、入ってくることを確保しましたが、また今後塞がっていくだろうと予測しています。もし水が足りない状態になり、給水制限などでご不便をかける事態にならないように、大木庭浄水場の検討させていただいています。

**F 委員：**大木庭浄水場を作ると令和9年、10年、11年に費用が8億ぐらいかかる。資本的収支とありますが、設備投資が多いと不足がものすごく出てくる、その部分も賄えるのがこの数字（図7. 4-3）と考えていいですか。特に浄水場を作ると、これぐらいの収支では全然足りないのではないかという感じがしました。

**事務局：**料金で維持管理ができるかどうか収益的収支のグラフになります。投資に関しては、起債という形で借金をして、これを30年とかで返していくことになります。ほかに減価償却も出てきますが、その年に一気にくるのではなくて、10年後、30年後に分けて発生します。経営的などところでの収支には直接表れてきません。

**F 委員：**何年にどれくらい借金があって、1年にどれくらい償還していくのかが分からないので、借金の残高の推移が分かるものはありますか。

**事務局：**企業債残高についてシミュレーションしたグラフが、今画面に出しているグラフです。浄水場を作って料金改定をしなかった場合が緑色の企業債残高になりまして、令和25年度に約57億ぐらいです。料金改定を行った場合、約40億で推移することになります。

**会長：**これを持ちまして令和6年度第1回鹿島水道事業審議会を終了いたします。

終了

